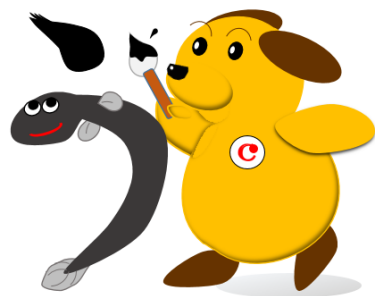


特集



うなぎの輸入



令和4年7月13日
東京税関

- ★2021年輸入数量は、活うなぎが前年比129%、うなぎ調製品が前年比122%と増加！
- ★業界によると、今年の夏の需要期においては、うなぎの輸入が増える見とおし！
- ★活うなぎは成田空港、うなぎ調製品は東京港がシェアトップ！

はじめに

夏の土用の丑の日といえば、うなぎです。この日にうなぎのかば焼きを食べる習慣がおこったのは江戸時代中期といわれ、それが現在でも続いています。今年は、一の丑(1回目の丑の日)が7月23日、二の丑(2回目の丑の日)が8月4日と、土用の丑の日が2回あります。

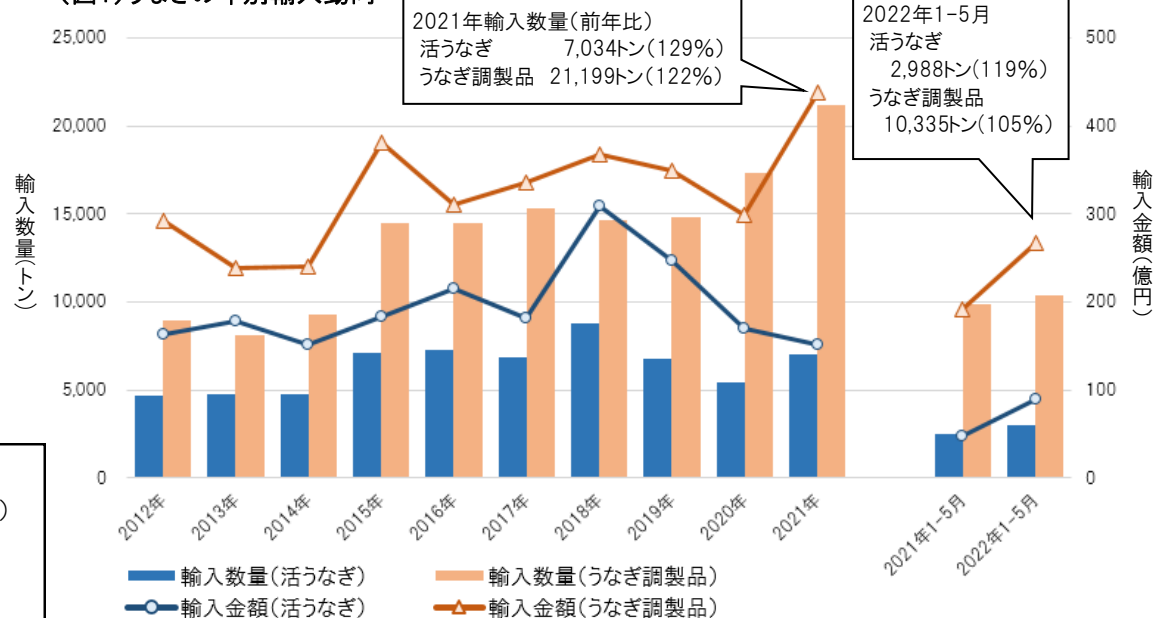
うなぎのかば焼きの売り場では、外国産のうなぎを使用したものが多いことに気づく方もいらっしゃるでしょう。水産庁の資料によれば、全国のうなぎ供給量のうち、輸入は約7割を占めているそうです。日本に輸入されるうなぎは、生きたまま輸送されてくる「活うなぎ」か、すでに海外においてかば焼きのような状態に加工された「うなぎ調製品」がほとんどです。

夏の土用の丑の日直前となった今回の特集では、うなぎの輸入についてご紹介します。

年別輸入動向

下図1は、近年のうなぎの年別輸入動向です。ここ数年の輸入数量の推移をみると、活うなぎでは概ね横ばいですが、うなぎ調製品は堅調な増加傾向にあります。2021年の輸入数量は、活うなぎで7,034トン(前年比129%)、うなぎ調製品では2万1,199トン(同122%)で、いずれも増加しました。(次ページに続く)

(図1)うなぎの年別輸入動向



本特集の「うなぎ」は、以下の輸入統計品目番号に属する品目です。

- ・活うなぎ : 0301.92-200 (生きているもので、養殖用の稚魚以外のもの)
- ・うなぎ調製品: 1604.17-000 (2011年までは1604.19-010)
(調製し又は保存に適する処理をしたもの)

※2021年分は確々報値、2022年5月分は9桁速報値です。

年別輸入動向(続き)

中国などの産地では、採捕したシラスウナギ(養殖用のうなぎの稚魚)を一年以上かけて育成した後、日本に輸出しています。業界によれば、2020年はシラスウナギが豊漁であったことが、翌2021年の輸入が増加した背景のひとつのことです。

また、コロナ禍の外出制限の影響により家庭内商材として冷凍食品への利用が好調であったほか、飲食店からのテイクアウトや出前などの利用が好調だったことも、活うなぎやうなぎ調製品の輸入数量の増加につながった可能性があるということです。

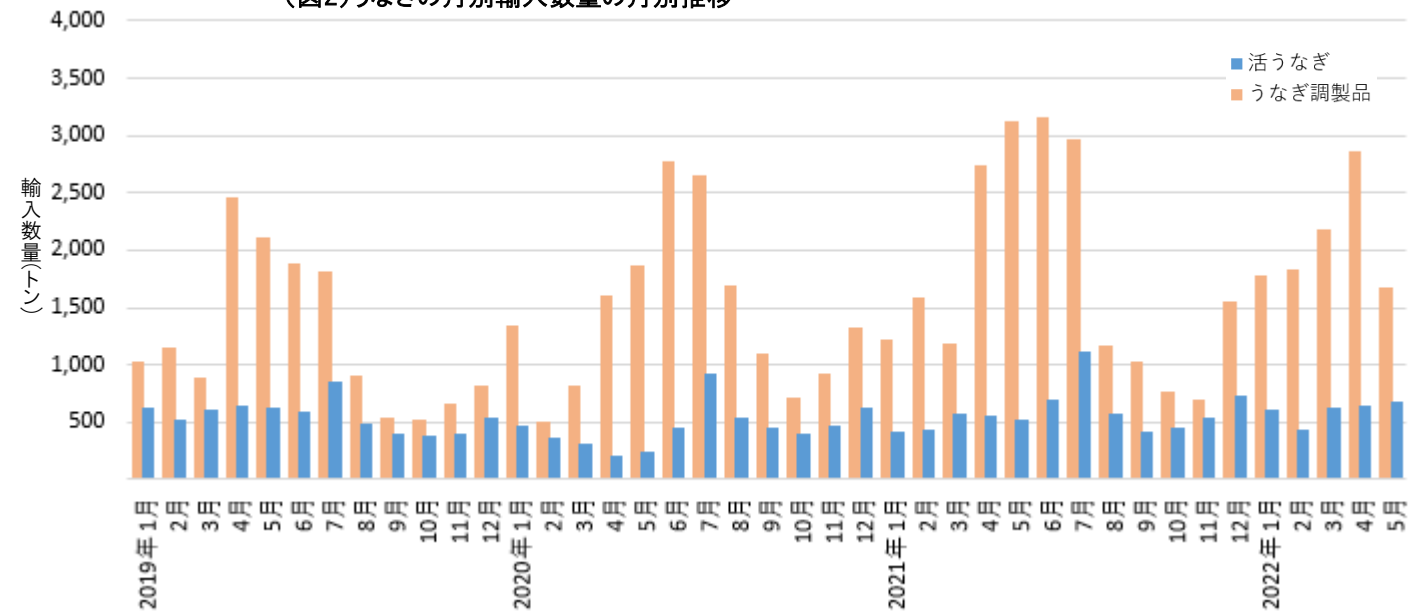
2022年においても、1-5月で伸びがみられます(前ページ図1参照)。活うなぎの輸入数量は約2,988トン、輸入金額は約89億円で前年同期比ではそれぞれ119%、186%となりました。また、うなぎ調製品の輸入数量は約1万335トン、輸入金額は約267億円で前年同期比はそれぞれ105%、139%となっています。

業界によると、日本の国産のうなぎが不足した場合は海外からの輸入で補われるとのことですが、今年の夏の需要期においては国産うなぎの供給が不足気味であり、輸入うなぎが増える見とおしだそうです。

月別輸入動向

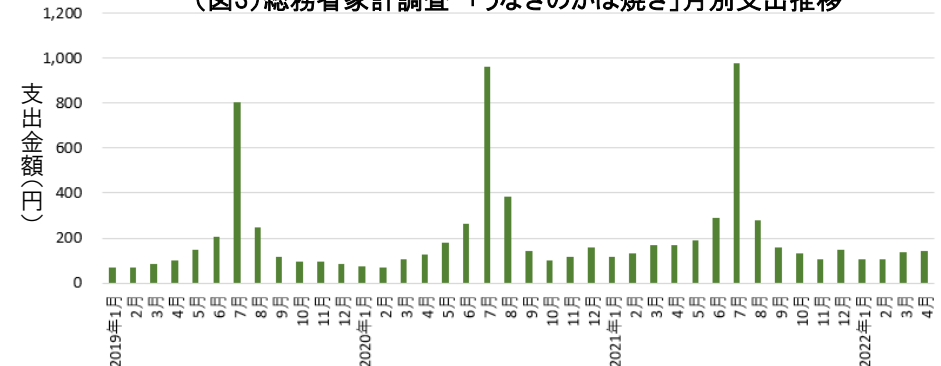
下図2は、うなぎの月別輸入数量の推移です。活うなぎは、7月に特に輸入数量が多いことが分かります。うなぎ調製品は、春から夏にかけて輸入数量が増加しています。

(図2)うなぎの月別輸入数量の月別推移



業界によれば、うなぎは暑い時期に販売量が増えるそうです。ところで、総務省の家計調査でも、「うなぎのかば焼き」に対する支出は7月に突出して多くなっており(右図3参照)、輸入数量はこうした消費動向を反映しているといえます。

(図3)総務省家計調査「うなぎのかば焼き」月別支出推移



※総務省家計調査(二人以上の世帯)をもとに作成。

港別輸入動向

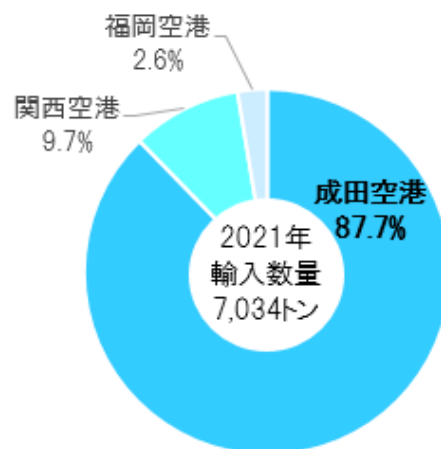
2021年の港別輸入数量をみると、活うなぎでは成田空港、うなぎ調製品では東京港がトップとなっています。

活うなぎ

2021年における港別輸入数量シェアは、成田空港が全国の約9割を占めトップです。

活うなぎは、鮮度を保つため、輸送に要する時間が短くて済む航空機で運ばれます。成田空港が多い背景としては、業界によると、中国など産地からの航空便数が多いことによるそうです。また、到着したうなぎは新鮮な水に放たれ、元気を取り戻させてから消費地へ出荷しますが、こうした専用設備を有する「産地問屋」が多い静岡県や愛知県への輸送については成田空港の利便性が高いということもあるとのことです。

(図4)活うなぎの港別輸入数量シェア

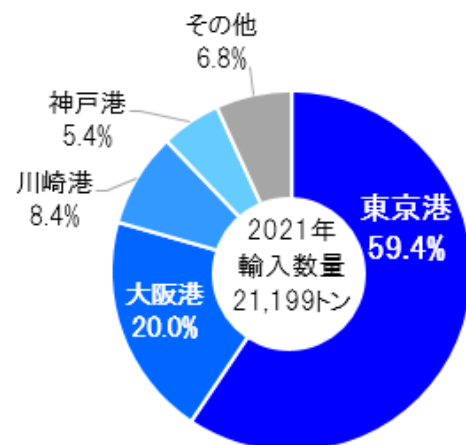


うなぎ調製品

2021年における港別輸入数量シェアは、東京港が半分以上を占めトップです。

うなぎ調製品は、冷凍してリーファーコンテナと呼ばれる冷凍設備付きコンテナに詰め、船舶によって大量に輸送されます。業界によると、東京港には首都圏向けだけでなく、関東以北、中部、北陸、沖縄方面に向けたものまで入ってくるためシェアが大きくなっており、コロナ禍のロックダウンなどの影響からコンテナの需給ひっ迫もあって、利便性の高い東京港に集中する傾向は今後も続くのではないかとのことです。

(図5)うなぎ調製品の港別輸入数量シェア



国(地域)別輸入動向

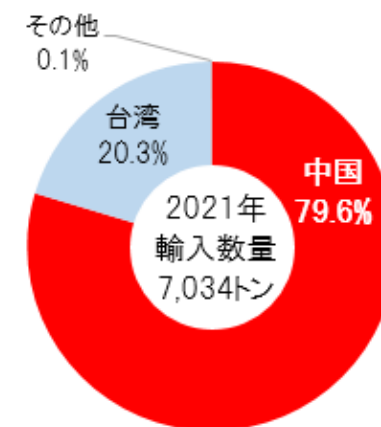
2021年の国(地域)別輸入数量をみると、活うなぎ、うなぎ調製品ともに中国がトップとなっています。

活うなぎ

2021年における輸入数量の国(地域)別シェアは、中国が79.6%とトップで、台湾の20.3%を大きく上回っています。

業界によると、中国におけるうなぎの養殖は、1970年代後半に日本からの技術移転がきっかけで始まったとのこと。その後、自然条件の良さや豊富な労働力に目をつけた台湾資本が進出し、中国のうなぎ養殖が盛んになりました。現在では、広東省を中心に、広い土地を利用して大規模に養殖が行われているとのことです。

(図6)活うなぎの国(地域)別シェア

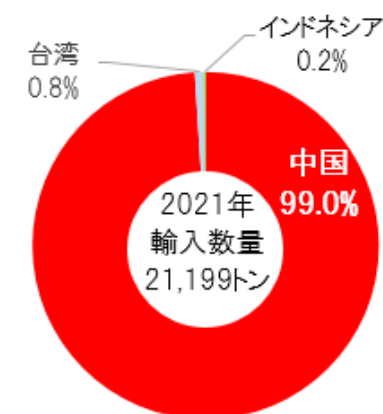


うなぎ調製品

2021年における輸入数量の国(地域)別シェアは、中国が99.0%と、そのほとんどを占めます。

業界によると、うなぎ調製品の中国での製造は、1990年代から台湾資本によって開始されたとのこと。製造開始当初、かば焼き製造のための機械やたれを日本から輸出していましたが、現在では製造ラインを含め、中国で完全生産されているものがほとんどだそうです。

(図7)活うなぎの国(地域)別シェア



うなぎの輸入数量・金額動向(年別等)

年	活うなぎ				うなぎ調製品			
	輸入数量(トン)		輸入金額(億円)		輸入数量(トン)		輸入金額(億円)	
		対前年比		対前年比		対前年比		対前年比
2012年	4,678	48%	164	68%	8,990	61%	291	86%
2013年	4,789	102%	179	109%	8,081	90%	238	82%
2014年	4,781	100%	152	85%	9,260	115%	240	101%
2015年	7,067	148%	183	121%	14,454	156%	381	159%
2016年	7,276	103%	215	117%	14,516	100%	311	81%
2017年	6,816	94%	182	85%	15,287	105%	335	108%
2018年	8,813	129%	309	170%	14,654	96%	367	110%
2019年	6,733	76%	247	80%	14,806	101%	349	95%
2020年	5,441	81%	170	69%	17,341	117%	299	86%
2021年	7,034	129%	151	89%	21,199	122%	438	146%
2021年1-5月	2,516	159%	48	74%	9,866	161%	192	158%
2022年1-5月	2,988	119%	89	186%	10,335	105%	267	139%

うなぎの輸入数量動向(月別)

年月	活うなぎ 輸入数量 (トン)	うなぎ調製品 輸入数量 (トン)
2019年 1月	632	1,022
2月	518	1,157
3月	613	885
4月	650	2,461
5月	629	2,109
6月	596	1,886
7月	852	1,806
8月	496	913
9月	403	543
10月	391	529
11月	408	669
12月	547	824
2020年 1月	471	1,345
2月	357	502
3月	320	828
4月	203	1,599
5月	235	1,863
6月	449	2,783
7月	930	2,650
8月	539	1,699
9月	448	1,105
10月	403	721
11月	462	920
12月	625	1,327

年月	活うなぎ 輸入数量 (トン)	うなぎ調製品 輸入数量 (トン)
2021年 1月	416	1,218
2月	440	1,589
3月	578	1,194
4月	552	2,735
5月	528	3,130
6月	693	3,166
7月	1,124	2,961
8月	573	1,171
9月	411	1,027
10月	450	766
11月	535	695
12月	733	1,548
2022年 1月	605	1,786
2月	431	1,829
3月	621	2,184
4月	652	2,865
5月	678	1,670

活うなぎ・港別輸入数量(2021年)

港	輸入数量 (トン)	シェア
成田空港	6,168	87.7%
関西空港	681	9.7%
福岡空港	183	2.6%
中部空港	2	0.0%
博多港	1	0.0%
合計	7,034	100.0%

うなぎ調製品・港別輸入数量(2021年)

港	輸入数量 (トン)	シェア
東京港	12,593	59.4%
大阪港	4,238	20.0%
川崎港	1,790	8.4%
神戸港	1,137	5.4%
その他	1,441	6.8%
合計	21,199	100.0%

活うなぎ・国(地域)別輸入数量
(2021年)

国(地域)	輸入数量 (トン)	シェア
中国	5,602	79.6%
台湾	1,429	20.3%
その他	4	0.1%
合計	7,034	100.0%

うなぎ調製品・国(地域)別輸入数量
(2021年)

国(地域)	輸入数量 (トン)	シェア
中国	20,983	99.0%
台湾	170	0.8%
インドネシア	45	0.2%
合計	21,199	100.0%

輸入統計品目番号は以下参照(各表共通)
 ・活うなぎ : 0301.92-200
 ・うなぎ調製品 : 1604.17-000

参考資料:

水産庁、「ウナギをめぐる状況と対策について(令和4年5月)」

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/saibai/attach/pdf/unagi-27.pdf>,
(参照 2022-06-06)

塚本勝巳(編著)、「シリーズ水産の科学② ウナギの科学」, 朝倉書店

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>